



7月27日 文化交流拠点施設起工式にて
「杭打ち」をする栗市長

ごあいさつ

平成28年8月3日

7月30日・31日と、今年も盛大に「野々市じょんからまつり」が開催されました。市民の皆さんの熱気が天気表れているのか、天気が来場された皆さんの熱気になっているのか、両日それぐらいに気温が上がりました。そんななか、多くの皆さんがご来場され、楽しまれている様子を見ると、このまつりがいかに愛されているかを感じることができます。この時期になると「じょんからまつり」以外にも、地域の虫送りや、町内会の夏祭りなどへ、たくさんのお声かけをいただきます。それぞれの会場でたくさんの方々とお会いし、お話をさせていただきます。いつも「野々市を元気に」と言っていますが、市民の皆さんの元気をその場でいただき、それが私の元気の源になっています。

27日に野々市中央地区整備事業 文化交流拠点施設起工式が行われました。ようやくここまで到達した、という感慨深さがあります。旧役場の移転や大型商業施設撤退、公共施設の老朽化など、かつては北国街道の宿場町として賑わい、野々市の中心的地域として発展してきたこの地域の活気が失われつつあります。このような状況のなか、この地で開校していた県立養護学校が、明和特別支援学校に統廃合したことにより、広大な敷地の利用にも迫られました。

何の因果もなく、ことが起こることはありません。偶然を必然に変えることで、危機を好機ととらえることで難局を乗り越えることができます。大きな決断ではありましたが、このようなことを全て含めて、旧役場周辺と文化会館周辺を結ぶ地域に、賑わいと活力を注入し、人の流れを創り出す構想を描きました。養護学校跡地と近接する文化会館を学習・文化・芸術に親しむ文化交流拠点「学びの杜ゾーン」に、もう一方の旧役場周辺をヒト・モノが交流し、にぎわいを創出する地域中心交流拠点「にぎわい交流ゾーン」としました。

行政側の思いだけを一方的に押し付けるのではなく、そこに住まわれる皆さんがこれからどうしたいのかという思いが大切です。「学びの杜ゾーン」には、かねてから待ち望まれていた「新市立図書館」と、複合施設として「市民学習センター」を加え、緑地空間を備えた「広場」を整備します。北国街道「野々市の市」など、市民の皆さんの手作りや、発想で創り上げていく取り組みを中央地区整備事業にさらに反映できればと思っています。

市制施行以来、「市民協働のまちづくり」「野々市ブランドの確立」を掲げてまちづくりを進めてきました。この文化交流拠点施設はその集結です。今の時代にしっかりとした基盤を創り上げ、のちの時代にあって「あのときの整備が今、活かされている」施設であってほしいと願っております。

「市民協働のまちづくり」のシンボルとなる施設を息づかせ、そこを活躍の舞台とするのは市民の皆さんご自身です。来年11月の竣工まで、今しばらくお待ちください。